

臨床セミナー申込について

- 定員数：100名(先着順)
- 対象者：臨床心理士・医師などの専門家、大学院生、研修生
事例に関する情報の守秘を厳守できる方
- 受講料：5万円(大学院生、研修生は4万円)

■ 申込み方法

振込用紙に下記の必要事項を明記し、受講料をお振込みください。

- ①氏名(ふりがな) ②住所・電話・FAX・e-mailアドレス(※e-mailアドレスは必ずはつきりご記入ください。)
- ③ご所属 ④職種(臨床心理士・医師・大学院生・研修生・その他)(※臨床心理士の資格をお持ちの方は、登録番号を記載してください。)
- ⑤事例発表の希望(有・なし・考慮中) ⑥研修証明書(要・不要)
- ⑦基礎の基礎セミナー受講(希望)

※お振込み確認後、事務局より「受講申込受付完了」のメールを送信いたします。
kodomoshinri@yahoo.co.jp, info@sacp.jpからのメールを受信できるようにしておいてください。
※2週間経っても申込完了のメールが届かない場合は、上記e-mailアドレスにお問い合わせください。

■ 振込先

- 口座番号：郵便振替00980-8-150282
- 加入者名：NPO法人子どもの心理療法支援会 京都精神分析・臨床セミナー

■ 基礎の基礎セミナー申し込み

振込用紙に必ず「基礎の基礎セミナー受講希望」と書いてください。
後日、受講の可否についてご連絡いたします。参加費は第1回時にご持参いただきます。

※参加費を、臨床セミナー費と同時に振り込まないでください。

申込締切：2018年10月14日(日) (先着順なのでお早めにお申込みください)

サポチル会員 募集中！

現在(2018年6月末)、ボランティア会員47名、専門会員145名が、本NPOの研修プログラムへの参加をはじめ、研修会の企画運営、広報事業などに携わっています。本NPOの活動への積極的なご参加をお待ちしています。申込方法は、Webサイト[http://sacp.jp]をご覧ください。

また寄付により、子どもの心理療法の料金を支援していただく賛助会員を募集中です。2018年6月末の時点で214名の方にご支援をいただいています。寄付はWebサイトからのクレジットカード決済、もしくは郵便振替(一口5千円より)によって可能です。

- Webサイト[http://sacp.jp]「サポートのお願い」のページをご覧ください。
- 郵便振替【口座番号：00990-0-192194 NPO法人子どもの心理療法支援会寄付金】

多くの方のご寄付により、経済的理由で心理療法を受けられないお子さんに心理療法を提供することが可能となっております。ご支援、ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



認定NPO法人 子どもの心理療法支援会 事務局
e-mail: info@sacp.jp URL: http://sacp.jp
〒604-8187 京都市中京区東洞院通御池下ル笹屋町444初音館302
FAX : 075-600-3238

2018-2019年 京都精神分析・臨床セミナー 運営スタッフ

臨床セミナー 運営スタッフ	林 秀樹(基礎の基礎セミナー) 井上 祐 竹田 駿介 辻内 咲子 藤森 旭人 堀内 瞳 村田 りか	理事	吉岡 彩子(臨床セミナー担当) 竹林 奈奈 久永 航平 松本 拓真 由井 理亜子 淀 直子 脇谷 順子 渡邊 智奈美	理事長	平井 正三
				副理事長	津田 真知子
				顧問	鶴飼 奈津子 飛谷 渉
				監事	鈴木 誠



サポチル 認定NPO法人 子どもの心理療法支援会 主催

2018-19年

京都精神分析・臨床セミナー

2018-19年度京都精神分析・臨床セミナーは、3年シリーズの3年目です！

ごあいさつ

当会は、児童福祉領域の子どもたちや、発達に何らかの課題を抱えた子どもたちへの精神分析的な心理療法を支援すること、
“研修プログラム”を通しての精神分析的な心理療法の専門家の養成、およびセミナーや研究会を通して専門性を高めることを目的として活動しています。その活動のひとつが、この「京都精神分析・臨床セミナー」です。1年間全6回を通して受講していただくプログラムです。今年、3年シリーズ『現代クライン派対象関係論を学ぶ』の3年目にあたります。1年目は「メラニー・クラインについて学ぶ—対象関係論の基礎」、2年目は「ビオン、ウィニコットについて学ぶ—対象関係論の展開」、今年「現代クライン派精神分析を学ぶ—ポスト・クライン派の臨床」をテーマに学んでいきます。

心理臨床に真摯で熱心な皆様方と共に学び、考えを深めることができますことを願っています。ご参加のほどよろしくお願いたします。

認定NPO法人子どもの心理療法支援会 理事長 平井正三

今年度のテーマは、

「現代クライン派精神分析を学ぶ—ポスト・クライン派の臨床」

- | | | |
|----------------------|----------|--|
| 第1回
2018/10/28(日) | 皆川 英明 先生 | 「病的組織化と心的退避」 |
| 第2回
2019/1/14(日) | 飛谷 渉 先生 | 「メルツァーの閉所/クロストラム：その二—精神病と自閉、そして現代のバーチャル世界における偽エディプス現象」 |
| 第3回
2019/3/17(日) | 福本 修 先生 | 「ベティ・ジョゼフの理論と技法：その源と今日の位置」 |
| 第4回
2019/5/12(日) | 浅田 護 先生 | 「英国現代精神分析におけるロナルド・ブリトンの貢献」 |
| 第5回
2019/6/16(日) | 平井 正三 先生 | 「タスティンと自閉症の子どもたちの心の世界の探求」 |
| 第6回
2019/7/21(日) | 脇谷 順子 先生 | 「アルヴァレズの臨床から学ぶ」 |

ここが変わる！
臨床セミナー 3カ年計画

- 1年目
メラニー・クライン
について学ぶ
—対象関係論の基礎
- 2年目
ビオン、そして
ウィニコット
について学ぶ
—対象関係論の展開
- 3年目
現代クライン派
精神分析を学ぶ
—ポスト・クライン派の臨床

臨床セミナー開催日の午前中(10時30分~12時)に「基礎の基礎セミナー」を開講します

- | | | | |
|-----|----------------------------------|-----|------------------------------------|
| 第1回 | 平井 正三 先生
「導入：精神分析とは何か？」 | 第4回 | 鶴飼 奈津子 先生
「子どもの精神分析臨床：基礎の基礎」 |
| 第2回 | 飛谷 渉 先生
「青年・成人の精神分析臨床：基礎の基礎」 | 第5回 | 竹山 陽子 先生
「タビストック方式乳児観察：ビデオと解説」 |
| 第3回 | 津田 真知子 先生
「心理療法を精神的に行うことの諸問題」 | 第6回 | 平井 正三 先生
「終結：振り返りと研修プログラムの説明など」 |

参加費

臨床セミナー(全6回受講) …5万円(※振り込み)

単発受講は受け付けておりません
なお、大学院生、研修生の方は4万円で受講いただけます。

基礎の基礎セミナー(全6回受講) …1万円(※直接手渡し)

※詳しい申込み方法は最後のページをご覧ください。

時間

13:00-17:30

●前半2時間【講義】 ●後半2時間半【事例検討】

会場

第1回・第4回・第5回・第6回…ハートピア京都(京都府立総合社会福祉会館)
第2回・第3回…ハートンホテル京都

ハートピア京都



地下鉄丸太町駅直結

ハートンホテル京都



地下鉄烏丸御池駅すぐ

2018－19年 京都精神分析・臨床セミナー 概要

★講師が挙げている参考文献は講義内容を補うものです。

第1回 2018年10月28日(日)	病理的組織化と心的退避	皆川 英明 先生
	<p>病理的組織化pathological organizationは、Steinerが精神病性パーソナリティや境界性パーソナリティなどの重症パーソナリティ障害の治療における病理的問題を理解するために提唱した概念で、心的退避はその臨床的現れである。これはRiviere、Bion、Rosenfeld、Segal、Joseph、O’Shaughnessyといった英国の精神分析家たちによる病理的な防衛組織に関する多くの先行研究を包括的にまとめ上げたもので、現実や治療者と接触することによって生じる不安(妄想・分裂ポジションや抑うつポジションにおける不安)を回避することを目的に、第三のポジションとして機能している。Steinerが提唱したこの概念は、治療困難な患者群の理解における基本的な視点となっている。当日は、歴史的研究を踏まえた上で病理的組織化について概説し、心的退避との異同についても論じてみたい。</p>	
参考文献	<p>こころの退避. ジョン・シュタイナー著、衣笠隆幸監訳、岩崎学術出版、1997 見ることと見られること. ジョン・シュタイナー著、衣笠隆幸監訳、岩崎学術出版、2013</p>	
ご所属	<p>広島市精神保健福祉センター</p>	

第2回 2019年1月14日(祝・月)	メルツァーの閉所/クロストラム:その二 —精神病と自閉、そして現代のバーチャル世界における偽エディプス現象	飛谷 渉 先生
	<p>一昨年メルツァーの閉所概念をめぐって、侵入という動機による投影同一化がもたらす生活体験の変容について考えた。そこで生じる体験の中心には、偽物感覚と閉所恐怖があった。今回は、メルツァーの仕事をより俯瞰的に紹介するとともに、閉所概念に関してメルツァーの描写する臨床状況と、精神病及び自閉症との密接な関連について探究する。さらに、偽エディプス状況のもたらす「一見穏やかだが実感の欠如した精神生活と急性の心的破綻に陥りやすい脆弱さ」という今日的精神病理を理解するに際し、メルツァーの閉所理論が、こうした新しい臨床現象に取り組むための強力な理論基盤を提供することを示したい。</p>	
参考文献	<p>Donald Meltzer　‘The Clastrum(1992)’ 飛谷渉「メルツァーの急進的展開」:オール・アバウト・メラニー・クライン所収.現代のエスプリ.</p>	
ご所属	<p>大阪教育大学保健センター</p>	

第3回 2019年3月17日(日)	ベティ・ジョゼフの理論と技法:その源と今日の位置	福本 修 先生
	<p>リヴィエールの「躁的防衛」論・クラインの「全体状況」論・メルツァーの「自己愛組織」論などを理論的背景として、here & nowでの交流の成立・不成立の観察と理解に傾注したベティ・ジョゼフの技法は、逆転移の活用とピオンの「記憶なく欲望なく」まで含んだ、クライン派の中でも最も精妙なものとして知られている。彼女は特に、倒錯的な患者について、主体性の投影という観点から独特の寄与をした。現代のクライン派分析者たちは、ジョゼフの大きな影響を受けているが、ややバランスが変わりつつある印象もある。基本的なところから現代的な話題まで、時間的に可能な範囲で概観することにする。</p>	
参考文献	<p>リヴィエール「陰性治療反応の分析への寄与」(『対象関係論の基礎』新曜社) ベティ・ジョゼフの論文(当日までにどれにするか選んで、会場でコピーを配布してもらいます) 福本修「成人症例の自閉性再考」(『精神分析から見た成人の自閉スペクトラム』誠信書房) ヒンシュェルウッド『クリニカル・クライン』『クライン派精神分析用語事典』(誠信書房) 福本修『現代クライン派精神分析の臨床』(金剛出版)</p>	
ご所属	<p>代官山心理・分析オフィス</p>	

第4回 2019年5月12日(日)	英国現代精神分析におけるロナルド・ブリトンの貢献	浅田 護 先生
	<p>ロナルド・ブリトンによる重要な貢献としては、まず、重症パーソナリティ障害の困難な転移逆転移理解の隘路を開く、エディプス状況と「第三の位置」が挙げられる。次いで、抑うつポジションは新たな次元のカタストロフを避け難く伴うという、ポスト抑うつポジションすなわちPS(n)→D(n)→PS(n+1)として精緻化し、クラインとピオンの心のモデルをさらに発展させた。さらに、「信念」については、近著「Between Mind and Brain」で論じる「こころの中のモデル」と分ち難く結びついた仕事であり、「信念」と「モデル」を通じて、ピオンの思考の発生についての難解なメタサイコロジーを、日常の経験と用語を用いて新しい視点から光を当てた。この日常の経験と精神分析的思考をつなぐ最も重要な基盤をブリトンは「隠喩」に求めており、それゆえにか、著作には文学、哲学、言語学、科学からの引用が実に豊富である。講義では、こうした、ロナルド・ブリトンの英国現代精神分析における貢献の足跡を辿りたい。</p>	
参考文献	<p>「信念と想像」ロナルド・ブリトン著:松木邦裕、古賀靖彦　訳、金剛出版、2002年. 「性、死、超自我」ロナルド・ブリトン著:豊原俊樹　訳、誠心書房、2012年. 「Between Mind and Brain」Ronald Britton,Karnac,2015.</p>	
ご所属	<p>医療法人あさだ会浅田病院</p>	

第5回 2019年6月16日(日)	タスティンと自閉症の子どもの心の世界の探求	平井 正三 先生
	<p>クライン以降の子どもの精神分析的探究の中で自閉症の子どもへの精神分析的アプローチは重要な位置づけを持っていきました。その中で、中心的な役割を果たしたのがフランセス・タスティンです。現代の子どもの心理臨床だけでなく、青年期や大人の心理臨床においても自閉症的な特性を持つクライアントをどう理解するのか、どう関わるのが重要な問いになっています。タスティンは、このような自閉症的な心の世界を理解する手掛かりを与えてくれます。本講義では、彼女の重要な考えのいくつかをご紹介します、自閉症について一緒に考えていく機会にしたいと思います。</p>	
参考文献	<p>タスティン『自閉症と小児精神病』創元社　スペンスリー『タスティン入門』岩崎学術出版社</p>	
ご所属	<p>認定NPO法人子ども心理療法支援会理事長　御池心理療法センター代表 大阪経済大学客員教授　精神分析的サイコセラピー・インスティテュート大阪(IPPO)理事</p>	

第6回 2019年7月21日(日)	アルヴァレズの臨床から学ぶ	脇谷 順子 先生
	<p>子どもとの心理療法を行うとき、自閉スペクトラム症をもつ子どもたち、そして、劣悪な環境の中で生きてきた子どもたちについての理解は必要不可欠だと言えるでしょう。アルヴァレズは、長年に渡ってそうした子どもたちとの精神分析的心理療法に取り組んでおり、子どもとの精神分析的心理療法の発展にも大きく貢献しています。子どものこころの中の萌芽の萌芽と呼べそうなものを見ていく繊細な視線、そして、子どもの中の潜在的な力が発達へと向かうよう、また、子どもたちがセラピストを「生きている対象」として体験できるためのセラピストの技法やあり方など、アルヴァレズの臨床から私たちが学ぶことは多いと思います。子どもたち、精神分析的心理療法、私たち臨床家、そして、彼女のゆるぎない臨床態度と自由なこころをあらためて考え、学ぶ機会になればと思います。</p>	
参考文献	<p>「子どものこころの生きた理解に向けて」(脇谷順子監訳)(2017年)金剛出版社</p>	
ご所属	<p>杏林大学/認定NPO法人子どもの心理療法支援会</p>	

<p>■ 研修ポイントについて</p>
<p>本セミナーは、日本臨床心理士資格認定協会の「定例型研修会（4ポイント）」として申請予定です。5回以上出席の方に「研修証明書」をお渡しいたします。ご希望の方は、振込用紙の通信欄に「研修証明書:要」とお書きください。</p>